

10.9.26 1920
Eguchi & Co. 9/26/20
火事泥的機械労働組合に與ふ

去る八月二十九日に、我が鐵工組合安治川支部の聲明書中に、偶々大阪機械労働組合を火事泥と稱し労働プロカーの手先と稱したる言辭ありたるに依り、安治川支部對機械労働組合との間に紛争を生じたるは予の認むる所なり。而して安治川支部の最高幹部なる平井榮藏氏並に眞如勝利氏が、聲明の取消及び陳謝の意を表する意志ありしは是また予の確認したる處である。

さりながら聲明書は安治川支部の名に於て爲せるものにて、こは平井眞如氏の猥りに安治川支部の名に於て取消並に陳謝文を發表するものにあらず。予は鐵工組合の理事長として斯く認めたるに依り平井眞如氏と機械労働組合代表との間に契約されたる事柄を否決せるものなり。而してこは天王寺公會堂に於ける労働運動肅正演說會の際、辯士室に來訪せる塚本重藏君に言明せる處である。その時、機械労働組合の創立者にして、且つ最高幹部の一員たる塚本重藏氏は何と言ひたるや、「鐵工組合の理事長が左様に認めたる上は詮すべなし」云々答へたるに非ずや。

予は曾て大阪鐵工組合員にして、且つ鐵工組合に依り除名處分に逢ひたる塚本重藏君が鐵工組合に對し如何なる怨恨を有するかは知らずと雖も、猥りに現組合長即ち當時の理事長たりし塚本孝三郎氏の心事を忖度して、資本家の犬と呼び、労働者の敵と稱する心事を疑はざるを得ず。

殊に天王寺公會堂に於ける予の聲明を認め、尙鐵工組合安治川支部の平井眞如の両氏のみならず全組合員をして非人間扱ひにしたる強がりの心理を随劣と感ずる者なり。

予は友愛會の脱退者にして、日本労働總同盟の會長たる鈴木文治氏に對しては、積年の恩義と背任の責とを感ずるものである。

さりながら機械労働組合の役員たる平井美人氏及び新生會の役員たる小林榮氏の質問に對して、

労働プロカーとは賀川豊彦氏並に鈴木文治氏の如きものなりと明言せる者である。此の事は九月一日の夜天王寺公會堂の辨士室に在りたる戒警察署員並に我が鐵工組合員の共々に傍聴せる處なるべし。蓋し我が安治川支部の役員が大阪機械労働組合を火事泥と觀し労働プロカーの手先と意思せるは次の理由に依るなるべし。

第一 塚本重藏氏は鐵工組合創立以來の功勞者にして、組合の機密に參割する處あり、思想の點隔より代議員會の容るゝ所とならず、遂に組合より除名處分に逢ひたるを遺恨として組合の機密を針小棒大に傳へ、以て機械労働組合の創立立脚地を作りたるに非ずや。國家にも機密あり、箇人の家庭にも機密あり、豈に労働組合に機密なからんやだが、労働組合員として自己の參割せる機密の一端を針小棒大に流布して自己の立脚地を作りしは、餘りに明白なる火事泥的の行動に非ずや。予の舊同志たる友愛會系の鐵工諸氏には氣の毒なれど此の間の事情を知りて友愛會の膨脹手段として機械労働組合の創立に盡力せりとせば、等しく共に火事泥の名は免れること能はざる可し。予は予の選任されし前に於ける鐵工組合の機密は知らねど、前理事長たる塚本孝三郎君及鐵工組合創立以來の組合員諸氏の人格を信じて斯く言ふに躊躇せんのだ。

第二 労働プロカーの走狗と云ふは、蓋し組合員増殖の方便を以て、俄造りの組合員が起せる労働争議に關係し、新加入者に對しては少くも三ヶ月以上の組合費を徴收すると言ふ噂あり。偶々友愛會幹部或は機械労働組合の幹部にして争議に關係したる爲め、當局者並に工場主等の注意人物となりて失職の憂目に逢ふものもあるも鼓を鳴らして當局並に工場主の違法手段を究明せず。失職せら浪の慘に逢ふ同胞を顧みず。組合員の増殖と組合費の増收とを維持するは明らかに労働プロカーならざるや。若し労働プロカーと言はるゝが嫌ならば、乞ふ同盟不履備者の苦衷を想察して、須らく政府及び資本家に肉迫すべしである。此の覺悟なくして労働争議の後押しするは必竟無責任なる労働プロカーに非らずや。機械労働組合員なるが故に失職せる者數百人ありと聞く。若し眞實ならば労働組合運動の致命傷なり。機械労働組合にして、労働運動の正道に立つものならば、乞ふ須らく此の失職者を處分すべし。資本家の同盟不履備は明らかに違法處分だ。

烏の雌雄を決する前に先づ労働組合運動の正道を辿らうぢやないか。

大阪鐵工組合

理事長 福田龍雄